

郵趣振興協会 活動報告

2020年6月11日～2020年8月31日

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

特定非営利活動法人 郵趣振興協会(以下「当協会」と略す。)は、その活動について広く伝えるため、3ヶ月に一度レポートを発行し、電子メール等で賛助会員にお伝えすると共に、無料でご掲載いただける雑誌媒体に同一内容を提供しております。

第3期 決算の完了

当協会では、会計の透明性を高めるために、収入・支出について、オンライン経理処理システムを使用して、できる限りリアルタイムで入力処理を行っています。(通帳記帳含めて)

同処理を行っている関係で、第3期(2019年4月-2020年3月)の経理処理は4/1に完了しました。但し決算作業への本格的な着手は8月になった為、決算承認を行う定時総会は8月30日と例年よりも遅い開催になりました。

第3期は「切手コレクション展示パネル」改修委員会を中心に、消耗品費用を約108万円使用しましたが、創業以来、賛助会員の皆様の会費で積み立ててきたお金を元に賄うことができました。予定通りパネルの改修が完了したことを受けて、全国切手展「スタンペックスジャパン2020」の開催につながりましたので、改修プロジェクトは成功だったと判断しております。

上記の理由で単年度では、65万7千円の赤字となりましたが、収入面では、賛助会費・特別賛助会費が順調に集まった事とスタンペックスジャパン2020事業の開始に伴い、経常収益は150万9千円となったこともあり、第4期(2020年4月-2021年3月)への繰越正味財産額は約38万円と累計赤字は避けることができました。

なお、決算承認の総会では、併せて、正会員の年会費の改訂および入会金を無料にすることが承認されました。これにより、今後の正会員の年会費は18,000円となりました。(賛助会員年会費6,000円は変更なし)

「国際郵趣連盟登録審査員による作品改善指導」の好評を受け、 全国切手展「スタンペックスジャパン2021」の開催を決定

スタンペックスジャパン2020出品者を対象に、4月に行った、『国際郵趣連盟登録審査員による作品改善指導』への好評を受け、当協会と郵政博物館(通信文化協会)は、協議の上、「スタンペックスジャパン2021」の開催を6月29日に決定しました。

会期は、2021年4月10日(土)～13日(火)の4日間で、作品募集期間は2020年11月1日(日)～12月17日(火)です。詳細の案内は2020年9月10日頃に発表予定です。

なお、切手展開催期間およびその前後の新型コロナウイルス感染症の状況を見通すことは、作品募集時点では難しい為、当切手展の運営にあたっては、様々な状況を予測して、無理のない形の運営ができる様に検討を行うことを共催の郵政博物館とは確認しており、オンラインビデオ会議サービスなどを活用した運営も検討しています。



オンライン郵趣例会振興プロジェクトからのご報告

当協会では、2020年4月より齋 享 理事をプロジェクトリーダーにして、オンライン郵趣例会の活用を促す活動を行っていますが、本活動報告期間中には、以下の活動を実施しました。

(1) 当協会が、技術および宣伝協力した、オンライン郵趣例会の開催

日本切手研究会	6回
外国切手研究会	12回
昭和切手研究会	3回
南方占領地切手コレクターズクラブ	3回
記念特殊切手研究会	1回

(2) ZOOM マニュアルの取りまとめと提供 (左図)

- ZOOM 画面共有マニュアル (Windows JPEG 画像用)
- ZOOM 画面共有マニュアル (Windows JPEG 画像以外用)
- ZOOM 画面共有マニュアル (MAC 用)



(3) オンライン郵趣例会開催団体の集客支援方法の提供

当協会ホームページにおける、例会報告コーナーの提供

外国切手研究会	12回
南方占領地切手コレクターズクラブ	3回

当協会では、9月以降も、技術面およびマーケティング面で様々な取り組みを行うことで、オンライン郵趣例会の振興を図っていきたいと考えております。

プロジェクトリーダー (齋 享) より

私は宮城県岩沼市に住んでいます。仙台市には近いですが、東京や大阪に比べたら、郵趣の情報入手にはハンデを感じてきました。そこで地方で情報を得る目的で、全国ネットの日本切手や昭和切手の ZOOM 例会を立ち上げました。

そうしたところ、全国だけでなく英米に滞在中の日本人まで含めて多くの郵趣家が集まり、画面を通じて、発表者の詳しい説明を聞き、たいへん切手の勉強になりました。

一方的に話を聞くだけでなく、時には討論になり、見ているだけでも面白い例会になりました。

また、分からないことを画面で尋ねると、日本のトップクラスの収集家も参加していますので、教えて頂き、内容ある例会になってきております。

専門の ZOOM 例会は、その分野の興味ある方だけが集まっているため、和やかな例会になっています。質問しますと、次々と画像が出てきて、面白いです。

ZOOM 例会を、『切手のテレビ番組が始まった』と発言せずに楽しく見ている方もいらっしゃる様です。なんとと言っても、会費と交通費がかかりませんので、効率のいい切手収集ができます。

オンライン郵趣例会は、今後ますます発展していくと思います。

各種事業の進捗について

当協会は「2020年度事業計画書」において、5つの事業を計画しております。

それらは「エキシビション事業」「フィラテリー必需品サプライ事業」「リサーチ及び研究推進事業」「フィラテリックPR事業」「次世代育成事業」の5つです。当クォーターにおける、各事業及び総務ほかの進捗をご報告いたします。

エキシビション事業

スタンペックスジャパン2021の開催について、郵政博物館と合意(6/29)

郵博 特別切手コレクション展(2020年度)等の展示会の準備

スタンペックスジャパン2021実行委員会(横山裕三 実行委員会事務局長)の活動継続

フィラテリー必需品サプライ事業

「ヒンジ・カバー用コーナー・透明マウント」の3品目を最重要対象品とした、Amazon.co.jpにおける供給体制を維持。(本事業は随意契約の形で、無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社へ委託しています)

リサーチ及び研究推進事業

リーフ作成雛形提供事業の準備を継続中

フィラテリックPR事業

ウェブサイトにおける情報発信を実施(6-8月で21件。対前四半期-27%)

オンライン郵趣例会 振興プロジェクト(斎享リーダー)の活動の継続

次世代育成事業

スタンプクラブ「月刊切手ニュース」への協力

総務ほか

理事会を1回開催(8/23)

定時総会を開催(8/30)

東京都庁に2019年度事業報告書を提出(8/31)

当協会 ZOOM アカウントの年間契約(7/31)

日常的な経理業務、問合せ業務への対応

(報告者：代表理事 吉田敬)